

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 【グローバル・リーダーの育成】 本校が定めたグローバル・リーダーに必要な6つの資質・能力を伸張し、生徒の学習意欲や進路意識を高めるとともに、生徒一人一人が国際的な視野を拓げる機会を充実させ、世界の課題に果敢に挑戦するグローバル・リーダーを育成する。

①「未来航路プロジェクト」の内容の見直し、3年間の活動内容を見通して学習内容を精選する。高校における課題研究との関連を図り、各学年においてポスターセッション等を含めた多様な発表方法を行う。【進路課】

- ・高校との課題研究の連携として、2月に高校生のポスターセッションを見学した。
- ・下級生が卒業までの研究の参考にできるよう、3年生の卒業論文集を作成することとした。

②グローバル・リーダーとしての自己実現が図られるようなグローバル講演会を計画、実施する。【総合的な学習研究開発係】

- ・12月に英語による落語に関する社会人講師授業を行った。また、2月には企業訪問を視野に、話し方に関する社会人講師授業を行った。

③グローバル・リーダーの育成を目標に生徒の自主的、実践的な態度・技術やコミュニケーション能力の伸張を図る。「課題研究」「海外研修」「コミュニケーションスキル」「社会貢献活動」の各活動場面への積極的な参加を促す。さらなる中高の連携を進める。【SOZAN国際塾】

- ・「SOZAN国際塾の活動について知っている」と回答する生徒の割合が61%となり、昨年度より認知度が下がった。目標に達していないため、今後新入生へのプレゼン方法など検討していく。
- ・SOZAN国際塾のボランティアチームでは、うのフェスタへの参加、旭川荘へのうちの贈呈、松柏祭でのオレンジリボンキャンペーンなどの活動を行うことができた。

④教科研究を通して、グローバル・リーダーに必要な資質・能力「6つのスキル」を育成する。【GLOBAL STUDIES・中学校】

- ・「教科研究を通して、グローバル・リーダーに必要な資質・能力の向上に努めた」と回答する教員の割合が96%となった。昨年度の割合よりも向上したが、目標の100%には達していないため、今後職員研修などで授業改善を行っていききたい。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、公開授業を行った割合が100%となる予定である。

2 【確かな学力の定着・授業力向上】 キャリア教育の充実を通して、生徒一人一人が主体的に学習に向かえるよう意識の向上を図り、新たな大学入試に対応する知識を活

用する力や思考力・判断力・表現力など確かな学力を定着させる。また、新学習指導要領への対応など、教職員の資質・能力の向上を図る。

①全教職員が、教科指導を通してグローバル・リーダー育成という学校経営の重点目標に向かえるように、SOZAN Global Can-do Listに基づいた研究授業を行い、授業改善を促す。また、互いに授業参観をし、意見交換や協議の場を設定する。課題研究についての理解を深め、探究活動における指導に役立てる。【職員研修係】

- ・年度末までに全教員が「SOZAN Global Can-do List」を意識した研究授業を指導案を作成して実施し、また、同時期までに2時間以上の公開授業の参観を全ての教員が行い、授業改善に取り組むよう取り組んだ。
- ・ポスター作成やポスターセッションについての職員研修を実施し、生徒への指導に生かしている。

②生徒の学習状況及び学習定着状況や課題を明確にするため、生活実態調査などの調査やテストの結果をもとにした多面的な資料を作成し、懇談等で効果的に生徒・保護者・教員へフィードバックを行う。【キャリアガイダンス係】

- ・第2回生活実態調査において、家庭学習時間（塾を含む）週18時間以上確保している割合は1年生が96%、2年生が86%、3年生が70%で、達成基準に到達した。
- ・進路課通信は今後の発行について検討している。

3 【生徒に対する総合的な支援の推進】 生徒の心身の健康の増進と自己肯定感の高揚を図る。また、安心安全な教育環境の整備を図るとともに、環境美化を推進する。

①基本的な生活習慣の確立のため、生活実態調査を毎学期実施する。パソコンの使用時間は学習に使用した時間と娯楽としての使用時間を分けて調査する。また、進路課と連携し生活実態調査の分析を行い、その結果を年間3回、懇談等を通じて生徒個人へ自身の調査結果の変遷を伝えて改善を促す。【生活指導係】

- ・学校自己評価の「見直すことができている」に関する回答は、今年度は68.7%であり、昨年度からは1.5%減少した。数値としては十分といえず、来年度は75%以上を目指して生活習慣の見直しを喚起していきたい。

②交通委員会や交通担当の教員を中心に、登下校時の交通指導を年間を通して実施する。交通委員会を効果的に活動させ、二重施錠の点検(月3～4回)や二重施錠の朝の呼びかけ運動(月3～4回)を行う。また、交通安全に向け反射材着用の呼びかけ運動(後期)を行う。【交通指導係】

- ・学校自己評価「委員会活動や下校指導を通して、交通マナーを守るように努めることができている」において、生徒の「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答する割合は92.2%となり昨年度より1.6%減少した。
- ・岡山県警主催の鍵かけコンテストにおいて施錠率は昨年度未満となり、来年度は優秀校に選出されるように取組を見直したい。

③教育支援が必要な生徒に適切に対応するため、学習面や行動面、また、日常的な生活部分での校内支援体制を整備し、保護者との連携を密にするるとともに、個別の支援計画を作成する。必要に応じて外部機関との連携を密にする。【特別支援教育係】

- ・支援が必要な生徒に関し、学期ごとに高校との情報交換を行い、進学後の様子や中学校での対応への情報共有を行えた。

- ・保護者や SC、SSW といった外部機関との連携・協力を図りながら、対象生徒の効果的な支援に生かすことができた。
- ④いじめ予防・自殺予防のために ASSESS などの調査を活用し、生徒の様子を意識してつかむようにする。いじめの認知を積極的に行うことで初期の段階で対応し、深刻化する前に解消できるように取り組んでいく。【人権教育係】
- ・各学期で ASSESS を活用し、学年で会議を持ち、共有を行った。気になる生徒への声かけを実施することができた。人権アンケートにおける「お互いの良さを認め合い、困っている人に手を貸している。」において、「あてはまる」と回答した割合が 96%と達成基準をクリアした。【人権教育係】
- ⑤よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、教科書を中心に読み物教材や教科書の内容にある役割演技を行い、平和学習、人権学習、SNS 等に関する学習を通して、物事を広い視野から多面的・多角的に考える力や道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。【道徳教育推進教師】
- ・人権アンケートの「人を傷つける言葉を使ったり、陰で悪口を言わない。」において、「あてはまる」92%と達成基準をクリアした。
- ⑥災害・避難情報：緊急速報メールなどに基づく抜き打ち避難訓練を行い、生徒の防災に関する意識を高めることで、健康で安全な生活を送るために必要なことさらに考えさせる。
- ・学校自己評価「学校では、いろいろな場面で健康で安全な生活を送るために必要なことさらに学ぶ機会がある」で、生徒の「よくあてはまる」と回答する割合は 52%であった。目標の 60%に届かなかった。生徒が健康や安全についてより自覚的に学べる取組を考えていきたい。
- ⑦利用価値の高い新刊図書の選定・購入及び図書便りなどの発行によりメディアルームや高校図書館の利用を促進させる。また、学級文庫の工夫により生徒の読書意欲を喚起する。【図書教育係】
- ・学校自己評価「自己の教養を深めたり、各教科・未来航路の学習を進めたりするために図書館を利用している」で、生徒の「よくあてはまる」と回答した割合が 17.6%と目標の 25%に届かなかったが、図書委員が本紹介のビブリオバトルを企画するなど、読書活動の気運を高めた。
 - ・教員の中でも ICT に傾倒する動きがあるように思われるので、もう少し書籍利用を考える方向付けも行いたい。
- ⑧技術・家庭科、生徒指導、未来航路の学習と連携し、生徒の情報活用能力を目指した授業を実施する。また、IT 機器の正しい活用方法の指導に関して、情報モラル、メディアリテラシーの向上を目指した授業を 1 回以上実施する。【情報教育係】
- ・学校自己評価「情報モラル、メディアリテラシーの向上のために安全に利用することについて考える講演会や授業を行っている」に対して「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合が 86%であった。目標はクリアしているが、昨年度よりやや下がっており、全体としての情報モラルの向上は見られるものの個別の事例として問題が発生している。

4 【開かれた学校づくりの推進】 積極的かつ魅力的な情報発信に努め、開かれた学

校づくりを推進する。また、生徒の校外での活動機会を拡充し、教育効果の向上を図る。

①生徒や保護者、地域社会の期待に応える教育活動の在り方を検討し改善を図る。より良い教育活動を展開するために、学校自己評価のアンケート項目の見直し・精選を各課長に依頼し、学校自己評価アンケートに生かす。学校自己評価のアンケートの分析結果を2月の学校保健委員会、またホームページを通して保護者に伝える。【教育評価係】

- ・ Google フォームを配信して教員、保護者、生徒から回答を得た。(教員:全員回収、生徒:96%、保護者:197件の回答回収。)
- ・ 回答の分析グラフを修正し、昨年度との比較を視覚的にわかりやすく改善した。
- ・ 力を入れて取り組むべき項目について分析としてまとめた。

②社会人として活躍している卒業生の人材を活用する。進路課と連携し、東京研修や京都研修で社会人として活躍している卒業生の講話会を設定する。【総務課】

- ・ 東京研修・京都研修では活躍している卒業生に接することで、より高い進路目標に向けて意欲をもったことが感想を読むことで確認できた。
- ・ 在籍年数が少ない教員でも人材バンクを活用することで、卒業生とのつながりをもつことができた。

③中学校授業公開で、さらなる本校の魅力を広く発信する。ホームページの高い更新頻度を継続する。スクールガイド改訂に伴い1年生の生徒や保護者、教職員の意見をもとに、改訂に取り組む。【広報活動係】

- ・ 例年より多くの外部の説明会に参加することで、10月の学校説明会には651名の参加があった。
- ・ 昨年度に引き続き、表紙デザインを工夫したスクールガイド作成に向け、担当者と打ち合わせを行い、作成することができた。新年度の中高授業公開で配付する。

④各学年1回の健康教育講演会を設定する。その中で生徒保健委員会の活躍の場を設定する。【安全管理課・指導課】

- ・ 健康教育講演会については、全て実施できた。生徒や保護者へ心身の健康についての啓発ができた。次年度は、担当者とともに講師変更を検討していく。(退官などによりお願いできないため)

5 【組織の活性化・業務の効率化の推進】 学校の課題や将来ビジョンをすべての教職員が共有し、ベクトルの合った業務を遂行するとともに、働きがいのある職場を創り、業務の効率化を図る。

①今年度の運営方針及び業務計画を全教職員で共有し、全教職員が一丸となったチームとして学校運営にあたる。各自が担当の課・学年団の業務のみならず、他の課・学年、そして全体に目を配ることにより、業務の統一等の精選を図り、働き方の効率化アップを目指す。【総務課】

- ・ 継続して教科においてOJTを実施し、本校の特色ある授業展開ができるようになった。
- ・ 次年度に継続した業務を実施または改善できるようにするために来年度に向けて、運営方針・業務計画を作成することができた。

②部活動休養日を平日は木曜日、休日は土日のどちらかは休養日に設定し、計画的に活動・休養が取れるようにしていく。【指導課】

- ・中間期に引き続き、各部が部活動方針に則り、計画的に休養日と活動日を設定することができた。平日2時間、休日3時間を目安に行い、ガイドラインに則した活動ができている。また、本校に設置がない柔道で中国大会や全国大会に出場することができた。

2 学校関係者評価委員名

坂入信也（岡山大学キャリア開発センター教授）
劉 耕助（ベネッセホールディングス中四国支社 学校事業責任者）
渡部義仁（株式会社太陽堂 代表取締役）
服部和博（原尾島原町内会長、宇野学区連合町内会長）
黒崎直美（本校PTA副会長）

3 学校関係者評価

1 学校評価について

- 中学校の評価を見ると、やや厳しく評価しているように思える。実際には1年間を通じて十分に取り組んでいるので、いくつかの項目では評価を高くしても良いように思えた。全体的によく頑張っている。
- たくさんの方が書かれているために、やや分かりにくい。項目をしばって取り組んだ方が明快で良いのではないか。

2 学校自己評価アンケートについて

- 保護者の「(学校の様子が)わからない」といった回答が多い項目もあるようだが、学校側に情報の提供を要求するだけでなく、保護者自身も積極的に知ろうとする態度を持つことが必要だと感じている。PTA活動の機会にほかの保護者にも呼びかけていきたい。
- 生徒も同様に「わからない」という回答が目立つ項目があるが、自己有用感が得られにくい状況があるとすれば、家庭内でも保護者から肯定される機会が減ったことが背景にあるのかもしれないと考えている。思春期の子どもはあまり学校のことを語りたがらないものだが、保護者は知ろうとする姿勢が求められているとも思える。

3 SOZAN国際塾の活動について

- コロナ禍が終わり、SOZAN国際塾の活動に多くの中学生が参加したが、中には忙しすぎて余裕がない生徒もいるかもしれない。一方で全く取り組んでいない生徒もあり、二極化になっていないかと心配だ。

4 生徒の様子について

- 最近学校に来たときに、生徒から挨拶されることが少なくなった気がする。以前はよくできていた。コロナ禍の影響かもしれないが、気持ちの良い挨拶ができるよう

指導して欲しい。

5 その他について

- 今年度は食堂業者の破産に伴う業務停止があったが、学校には新年度からの再開に向けた協議や手続きを速やかにしてもらえたのが大変ありがたかった。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

1 【グローバル・リーダーの育成】

- ・未来航路プロジェクトにおける中高6年間を見通した課題追究学習を推進する。
- ・SOZAN 国際塾のプログラムを活用し、地域連携を深めるとともに外部大会等での上位入賞を狙うことで探究心を育てる。
- ・SOZAN Global Can-do List に基づき、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を行い、社会のリーダーとなれる生徒を育成する。

2 【確かな学力の定着・授業力向上】

- ・引き続き SOZAN Global Can-do List に基づいた研究授業、また相互の授業参観を通じた教員の授業力向上に取り組み、生徒の学力向上につなげる。
- ・家庭学習習慣の重要性を一層啓発し、改善を図る。
- ・授業における一人一台端末の効果的な活用について、情報を共有し、学力向上につながる授業づくりに生かす。

3 【生徒に対する総合的な支援の推進】

- ・引き続き SC、SSW や外部専門機関と連携をとりながら、生徒支援体制の整備や迅速かつ適切な対応を一層推進する。
- ・Standby、心と体のチェックシートや ASSESS の結果などを分析・活用しながら、生徒一人一人の状態や、生徒間で起こっている状況等を把握しながら、事態が悪化する前に気になる生徒の早期発見・早期対応につなげる。

4 【開かれた学校づくりの推進】

- ・学校自己評価アンケートの結果分析を踏まえ、結果の周知とともに、次年度に向けた取組について検討する。
- ・引き続き SOZAN 国際塾の取組や部活動など本校の魅力を、マスコミに対して積極的な発信に務める。
- ・地域住民や社会人で活用できる人材バンクの充実に向け、情報収集を行う。
- ・学年通信や学級通信、ホームページ等を通じて保護者に情報発信を行う。

5 【組織の活性化・業務の効率化の推進】

- ・本校に求められる教育の質を維持しながら、過剰な負担にならないよう学校行事や業務の内容の見直しを行う。
- ・学校評価書ツールとして活用しながら、目標の達成に向けたスケジュール管理など、業務改善に生かす。
- ・ミライムの活用により勤務実態を把握し、超過勤務の解消につなげる。